

公 示

独立行政法人国際協力機構（以下「機構」という。）がコンサルタント等との業務実施契約（単独型）に基づき実施する予定の案件を公示します。

これら案件の選定に当たっては、企画競争（プロポーザル方式）を採用します。応募のための簡易プロポーザル作成に当たっては、以下の事項に留意した上で、当機構ホームページで公開している「プロポーザル作成要領」に従って作成願います。

なお、公示に関する照会は調達部（Tel:03-5226-6612, 6613）あてにお願いします。

2013年4月3日

独立行政法人国際協力機構
契約担当役
理事 小寺 清

【1. 簡易プロポーザル提出の資格】

簡易プロポーザル提出の有資格者は、平成22・23・24年度全省庁統一資格を有する者、同資格を有していない場合は機構の事前資格審査を受けている者又は国際協力人材登録している者に限られます。

また、法人の場合、日本国で施行されている法令に基づき登録されている法人、個人（法人に所属する個人を含む。）の場合、日本国籍を有する方に限ります。

会社更正法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、簡易プロポーザル提出の資格がありません。

国際協力人材登録者については、公示案件に応募する際、調達部受付（機構本部1F）（〒102-8012 東京都千代田区二番町5番地25 二番町センタービル）へ、簡易プロポーザル及び見積書とともに以下の（1）～（3）の書類（すべて原本が必要。コピーは不可。）を提出（郵送又は持参にて必着）していただく必要があります。

（1）住民票又は住民票記載事項証明書（海外在住の場合は、在留証明書）
平成15年10月以降（機構発足後）に国際協力人材部人材確保課又は調達部計画課に住民票、住民票記載事項証明書、戸籍謄本又は戸籍抄本のいずれかを提出した方は不要です。
なお、国際協力人材登録を一度削除されて、新たに登録を行う方は改めて住民票、住民票記載事項証明書、戸籍謄本又は戸籍抄本のいずれかの提出が必要となります。

（2）納税関係書類

1）納税証明書「その3の2」（未納額がない証明書：税務署発行のもの）
ただし、給与所得者の場合は源泉徴収票で可とします。

2）住民税納税証明書（区市町村発行のもの）

注1）各年の納税証明書の発行時期については、発行機関によって多少差異がありますので、各機関へ直接お問い合わせ下さい。発行時期に達していないため、当年度分の納税証明書を提出できない場合、または、納期経過未納額がある場合は、昨年分の納税証明書を提出して下さい。

注2）以下の方については、納税関係書類の提出は不要です。

a. 当年度において、2回目以降のプロポーザル提出となる方（ただし、納税関係書類の有効期間が過ぎている場合は、再度提出が必要です。）

b. 過去に海外に居住し、納税関係書類を提出できない方（ただし、海外居住の旨を記載した住民票を提出願います。）

c. 被扶養者等納税義務のない方（ただし、非課税証明書を提出願います。）

d. 現在海外に居住している方（ただし、在留証明書を提出願います。）

（3）消費税課税事業者届出書の控

消費税課税対象者は、上記の納税関係書類に加え、2年以内の税務署受付印のある消費税課税事業者届出書の控を提出してください。

この他、所属先を有する方については、派遣について所属先の同意が得られない場合は派遣できませんので、簡易プロポーザル提出前に必ず所属先の承認確認をお願いします。

また、国際協力人材登録者については、契約交渉時に過去1年以内の健康診断書（写）の提示をお願いします。

【2. 提出書類】

簡易プロポーザル作成に際しては、「プロポーザル作成要領」を十分参照願います。

「プロポーザルの作成要領」は、機構ホームページ「調達情報」中「コンサルタント等の調達」

（<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/index.html>）を参照してください（ハードコピーでの販売・配布は行っておりません）。

簡易プロポーザルは、以下の3つの文書から成ります。様式がありますので、上記の「プロポーザル作成要領」及びホームページ（同上）を参照願います。

（1）簡易プロポーザルの提出の頭紙

（2）簡易プロポーザル本体

業務の実施方針、業務従事者の経験・能力等

（3）見積書

見積書は簡易プロポーザルとは別に密封して下さい。なお、婚姻等で姓が変更になった場合は新しい姓で簡易プロポー

ザルを作成して下さい。また、変更後は必ず旧姓を併記して下さい。

【3. プロポーザルの提出方法】

簡易プロポーザルは、提出期限（時刻）までに、持参して下さい。郵送の場合は提出期限（時刻）必着とします。

【4. 情報の公開について】

本公示により、プロポーザルを提出するコンサルタント等においては、その法人、個人、団体名を、コンサルタント等契約情報として機構ホームページ上に原則公表しますのでご承知下さい。

また、本公示により契約に至った契約先に関する情報を機構ホームページ上で公表することとしますので、本内容に同意の上で、プロポーザルの提出及び契約の締結を行っていただきますようご理解をお願いいたします。

なお、プロポーザルの提出及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

具体的には、「公共調達適正化について」（平成18年8月25日付財計第2017号）に基づき、下記リンクのとおり契約に係る情報を公表します。（<http://www.jica.go.jp/announce/proper/domestic/index.html>）また、下記（1）に該当する場合は右リンクのとおり契約に係る情報を公表します。（http://www.jica.go.jp/disc/keiyaku_0701.html）

（1）公表の対象となる契約相手方

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

ア. 当該契約の締結日において、当機構で役員を経験した者が再就職していること、又は当機構で課長相当職以上の職を経験した者が役員等（注）として再就職していること

注）役員等とは、役員のほか、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、

助言することなどにより影響力を与え得ると認められる者を含む。

イ. 当機構との間の取引高が総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること

（2）公表する情報

契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約相手方の氏名・住所、契約金額とあわせ、次に掲げる情報を公表します。

ア. 対象となる再就職者の氏名、再就職先での現在の職名、当機構での最終職名

イ. 契約相手方の直近3か年の財務諸表における当機構との取引高

ウ. 契約相手方の総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引割合

エ. 一者応札又は応募である場合はその旨

（3）当機構の役員経験者の有無の確認日

当該契約の締結日とします。

（4）情報の提供

契約締結日から1ヶ月以内に、所定の様式にて必要な情報を提供頂くこととなります。

【5. プロポーザルの無効】

提出されたプロポーザルが次の事項に該当した場合、プロポーザルは無効となりますので、ご注意ください。

（1）提出期限後にプロポーザルが提出されたとき

（2）提出されたプロポーザルに記名、押印がないとき

（3）同一提案者（コンサルタント企業等）から、同一の案件に対し、従事予定者が異なる2通以上のプロポーザルが提出されたとき

（4）プロポーザル提出者が全省庁統一資格結果通知書を取得していない、またはJICAの事前の資格審査を受けていないとき

（5）JICAが定める「独立行政法人国際協力機構競争参加資格停止措置規程」（平成20年細則（調）第42号）に基づく指名停止を受けている期間中である者又は当該者が構成員となる共同企業体からプロポーザルが提出されたとき

（なお、プロポーザルの提出後であってもプロポーザル審査結果の通知前に指名停止を受けた者を含みます。）

（6）虚偽の内容が記載されているとき

（7）前項に掲げるほか、業務指示書又はコンサルタント等契約関連規程に違反したとき

【6. 業務期間重複によるプロポーザル提出の制限】

（1）既に受注している案件または契約交渉中の案件と業務期間が重なる業務従事予定者を配置して応募することは認められません（ただし、業務期間を調整して重複を避けることができる場合、応募に支障ありません）。

（2）プロポーザルの提出期限を同じにする複数の案件に、業務期間が重なる業務従事者を配置して応募することはできません。

（3）業務期間が重複する可能性のあるJICAの他の業務実施契約（単独型）案件に応募し、選定結果が未通知である業務従事者を配置して応募する場合、応募中の案件を含めて2案件までであれば応募することができます。

【7. その他】

（1）登録制度は廃止いたしました。当機構にて行っております契約競争やコンサルタント契約に関心を持っていただいている方の情報をとりまとめたく、「情報シート」の提出をお願いしておりますので、ご対応の程よろしくごお願い致します。

詳しくは、機構ホームページ「調達情報」>「事前資格審査制度」をご確認ください。情報シートの様式も掲載しております。

（2）不採用になったプロポーザル（正）及び見積書（正）は返却可能です。選定結果の通知日から2週間以内に、返却を希望する旨を調達部担当契約課にご連絡ください。連絡がない場合は機構で処分します。

（3）プレゼンテーションを行う案件については、原則、公示にて指定された場所においてプレゼンテーションを実施することとします。これによりがたい場合は、調達部担当者にご相談ください。なお、条件がそろわない場合には、プレゼンテーションを実施いただけないこともあります（その際は、プレゼンテーションの評価点がゼロとなります。）ので、ご承知おきください。

（4）航空運賃を見積る場合には、ZONE-PEX運賃を上限の単価として見積りを行って下さい。「業務実施契約等における正規割引航空運賃の利用について/通知(PR)第9-27004号」によりビジネスクラスの利用が認められる業務従事者の渡航については、ビジネスクラス正規割引運賃までを上限の単価として見積りを行ってください。

なお、実際の航空券の手配にあたっては、上記見積額を上限としつつも、業務実施上の必要による経路の変更、予約の変更等の必要な緊急時の対応も考慮しつつ、より効率的であるとともに経済的な航空券の手配に努めてください。

なお、業務に含まれる国内での会議等に出席するための旅費・交通費については、諸経費に含まれるとの整理をしておりますので、支給の対象とはなりません。

（5）先方政府から日本国政府に対して要請のあった専門家を派遣するための契約案件については、専門家を派遣する際には最終的に専門家の履歴を示した上で、先方政府の受入れを確認することが必要となります。

このため、先方政府からの受入れ確認が得られることが契約成約の条件となり、契約は受入れ確認が得られた後の締結となりますので、予めご承知おき願います。

番号：2 国名：ラオス 担当：ラオス事務所
案件名：南部山岳丘陵地域生計向上プロジェクト（水産技術普及）

1 今回契約予定のコンサルタント
水産技術普及 3号

2 契約予定期間： 全体 2013年5月下旬から2013年12月上旬まで
業務予定期間（日数） 準備期間 派遣期間 整理期間 M/M
水産技術普及 5 162 5 5.90
（現地：5.4M/M、国内：0.5M/M）

3 簡易プロポーザル提出部数、期限、場所
簡易プロポーザル：正1部写4部
見積書：正1部写1部
提出期限：4月17日(12時まで)
提出場所：調達部受付（JICA本部1F）

4 プロポーザル評価項目及び配点

(1) 業務の実施方針	
ア 業務方針の的確性	6
イ 業務方法の整合性、現実性等	12
ウ 当該業務実施上のバックアップ体制	2
(2) 業務従事者の経験能力等	
ア 担当事項：水産技術普及	
(ア) 類似業務の経験	40
(イ) 対象国又は同近隣地域若しくは同類似地域での業務経験	8
(ウ) 語学力	16
(エ) その他 学位、資格等	16
	(計100点)

5 記載時留意事項

語学の種類：英語（語学は認定書（写）を添付してください。）
対象国/地域：ラオス/全途上国
類似業務：淡水養殖に係る各種業務

6 条件

補強：認めない。
参加資格のない社等：特になし。
その他：特になし

7 業務の背景と目的

ラオス国においては、全国レベルで2000年に主食であるコメの自給を達成したとされているが、稲作に適した土地に限られ、流通の困難な山岳丘陵地域、特に少数民族が多数を占める南部4県（アタプー、サラワン、セコン、チャンバサク）では、2008年に全1,664村中352村がラオス国政府により貧困村として指定されるなど、未だ食料不足や貧困が深刻な状態にある。このため、当該地域においては各地域の自然、経済及び社会環境に適した農業振興による住民の生計向上が喫緊の課題となっている。また、2005年にクラスターと呼ばれる郡の下に5～10村をまとめた末端の行政単位が新たに設置され、ラオス農林省では、このクラスターにTSC（Technical service center）を整備し、農業普及に取り組んでいるが、未だ大きな成果が得られていない。

ラオス国政府は、南部4県の貧困住民の生計向上に向けて、クラスターを通じた農業普及の課題を解決するため、日本政府に対し技術支援を要請した。これを受けて、JICAは農林省をカウンターパート機関（以下、C/P）として、南部4県を対象に、クラスターに基づく畜水産業を主体とした農業技術の普及を目指した「ラオス南部山岳丘陵地域生計向上プロジェクト」を2010年11月から2015年11月まで5年間の計画で実施中である。2013年4月現在、長期専門家2名（チーフアドバイザー、業務調整/研修・普及）を派遣中である。水産分野に関しては、専門家派遣により、2011年度は約7ヶ月間、また2012年度は約9ヶ月間にわたり水産養殖の技術普及に係る支援が行われた。

本プロジェクトは、2012年12月に中間レビュー調査が実施され、現在は、そのレビュー結果を踏まえ、C/Pと共にプロジェクト後半の実施方針に係る協議が進められており、2013年6月頃を目処に後半の活動が開始される。本専門家は、プロジェクト前半の活動の成果と課題を踏まえつつ、小規模養殖による生計向上を目指し、農民間普及を主とする技術普及メカニズムの構築を支援するものである。特に、農民間普及で最も重要な役割を担う農民間普及の中心となる種苗生産を行う農家（中核農家）の育成に重点を置き、種苗生産技術を中心に技術転移を実施する。その他、

C/P職員及び一般の養殖農家に対して、養殖技術に係る必要なアドバイスを行う。

8 業務の範囲及び内容

本コンサルタントは、技術協力プロジェクトの仕組みと手続きを把握の上、本プロジェクト対象4県（アッタプー、サラワン、セコン、チャンパサック）において、プロジェクト後半の対象地となる8クラスターを中心に、農民間普及を主とする水産養殖の技術普及メカニズムの構築を支援することを業務の主眼とする。農民間普及の中心的な存在である中核農家の育成、特に種苗生産技術の技術移転に重点を置くものとし、技術普及メカニズムの実働に向けて、C/P職員や一般の養殖農家に対しても技術指導やアドバイスを行う。その他、チーフアドバイザーと協力し、ラオス政府の関係機関や他ドナー等との連携促進を積極的に図るものとする。

なお、本コンサルタント派遣時には、プロジェクト後半の対象となる8クラスターで中核農家候補の候補者リストが作成されている予定である。本コンサルタントはこのリストから中核農家候補を選抜（8名程度を想定）し、育成する。また、一部プロジェクト前半の対象地の既存種苗生産農家（2～3名程度を想定）への追加的な技術指導も業務に含めることとする。

具体的な担当事項は以下のとおりとする。

(1)国内準備期間（2013年5月下旬）

ア 既存資料（詳細計画策定調査、専門家業務完了報告書）等から情報を収集し、要請背景及び内容について把握する。また国内で入手可能なラオス国の養殖技術や普及活動に関する資料から本件に必要な情報収集及び分析を行う。

イ 業務実施計画書（英文、和文）を作成し、JICA農村開発部へ提出し、説明する。

(2)現地派遣期間（2013年6月上旬～2013年11月下旬）

ア 現地業務開始時にC/P機関及びJICAラオス事務所に業務実施計画書（英文、和文）を提出し、業務計画の確認を行う。

イ プロジェクトによって作成された中核農家候補の候補者リストから、ラオス側C/P及びチーフアドバイザーと相談し、中核農家候補を選抜する。

ウ プロジェクト後半の対象8クラスターの中核農家候補及びプロジェクト前半に支援した種苗生産農家の種苗生産技術を中心とする養殖技術の水準を把握し、それを踏まえて、コイ、シルバーバルブ、ティラピア及びムリガルの4魚種の種苗生産技術に関して、ラオス側C/Pと共に技術マニュアルを作成する。

エ 上記ウの4魚種の小規模池中混合養殖技術（池造成から収穫までの一連の技術）に関して、上記ウ同様、中核農家候補の技術レベルを踏まえた上、ラオス側C/Pと協力し、技術マニュアルを作成する。

オ 上記ウ及びエの技術マニュアル作成時に整理された当該地域の中核農家候補に必要な養殖技術について、ラオス側C/Pと共に、ラオス農林省下の組織を中心にラオス国内のリソースパーソンを特定、リソースパーソンリストを作成する。

カ プロジェクト活動にラオス国内のリソースパーソンの協力が得られるよう、上記オで作成したリストに基づき、ラオス農林省下の組織を中心にラオス政府関係機関との関係を構築する。また、プロジェクト活動の効果的な実施及び成果の拡大に向けて、ラオス側C/P及びチーフアドバイザーと相談しつつ、他ドナー及びNGO等との連携を模索する。

キ 上記ウで作成した種苗生産に係る技術マニュアルに基づき、ラオス側C/Pと共に中核農家候補を対象とする種苗生産技術研修プログラムを立案し、実施する。

ク 上記キの結果をラオス側C/Pと共にレビューし、種苗生産技術研修プログラム実施報告書を取りまとめると共に、上記ウで作成した種苗生産に係る技術マニュアルを改善する。

ケ 上記ウ及びエで作成した技術マニュアルに基づき、ラオス側C/Pと共に、中核農家候補が種苗生産を行うにあたり必要となる施設及び資機材について支援策を立案し、実施する。

コ 各中核農家候補に対して、それぞれの農家の設備（ハッチェリー）を利用し、個別に集中的な実地指導を行う。

サ ラオス側C/Pと協力して、上記ケ及びコの結果のレビューを行い、中核農家候補への支援に関する報告書を取りまとめると共に、小規模池中混合養殖技術マニュアルを改善する。

シ 現地業務結果報告書（英文）を作成し、中央C/P機関及びJICAラオス事務所に対し、業務の成果、助言等を含む現地業務結果を報告する。

(3)帰国後整理期間（2013年度11月下旬）

ア 専門家業務完了報告書（和文）を作成し、JICA農村開発部への提出及び報告を行う。

9 成果品等

業務の実施過程で作成・提出する報告書等は以下のとおり。なお、本契約における成果品は(3)専門家業務完了報告書（現地写真も含む）とする。

(1) 業務実施計画書

和文3部(JICA農村開発部、JICAラオス事務所、プロジェクトへ各1部)

英文4部(C/P機関、JICA農村開発部、JICAラオス事務所、プロジェクトへ各1部)

(2) 現地業務結果報告書

英文4部(C/P機関、JICA農村開発部、JICAラオス事務所、プロジェクトへ各1部)

なお、現地業務結果報告書には、「8 業務の範囲及び内容(2)」の成果物である以下を別添として添付すること。

・種苗生産技術マニュアル（「8 業務の範囲及び内容(2)ウ」）

- ・小規模池中混合養殖技術マニュアル（「8 業務の範囲及び内容(2)エ」）
- ・ラオス国内のリソースパーソンリスト（「8 業務の範囲及び内容(2)オ」）
- ・種苗生産技術研修プログラム及び研修実施報告書（「8 業務の範囲及び内容(2)ク」）
- ・中核農家候補への支援に関する報告書（「8 業務の範囲及び内容(2)サ」）

(3) 専門家業務完了報告書（現地写真も含む）

和文3部（JICA農村開発部、JICAラオス事務所、プロジェクトへ各1部）

なお、上記成果品の体裁は簡易製本とし、電子データも併せて提出すること。

また、現地派遣期間中の業務従事月報を作成し、JICAラオス事務所に提出すること。

10 特記事項

(1) 業務実施上の留意点

航空券・旅費（日当・宿泊費）は契約に含む。なお、積算可能な費用項目については

http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_gt/index_201301.htm

プロポーザルの提出（見積書）を参照のこと。

航空便経路：指定なし

(2) プロポーザル提案事項

ア 養殖の農民間普及メカニズムの構築にあたり、カンボジア淡水養殖改善普及プロジェクト等の先行事例を参考に、ラオスにおいて養殖の農民間普及メカニズムを構築するための道筋及び留意事項等を整理し、A4、1枚以内にまとめ、プロポーザルの別添資料として添付すること。

イ 業務工程表をプロポーザルにて提案すること。

(3) 参考資料

本件に係る資料は、JICA農村開発部水田地帯第一課（03-5226-8452）にて閲覧できます。

(4) 必要予防接種 無

(5) その他

特になし